

---

Nest of Dragon ~ 気高き契約 ~

神酒 羽乃魅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Nest of Dragon へ気高き契約へ

### 【Nコード】

N2282BA

### 【作者名】

神酒 羽乃魅

### 【あらすじ】

主人公である 桜夢 美智霞 は、生まれる時に母をなくし音を失った。小学校で親友ができ、中学校でクラスが分かれ、つらい日々をおくっていた。しかし、そんな美智霞がある日、ドラゴンに出会い、美智霞の日常は一変する事になる……。

## き 最悪な目覚め

目が覚めるとそこは、ただただ真っ白な部屋だった

私が身に纏っているものも、シミが目立ちそうな白いものだった。

しかし私の横には一つ・・・、いや一人白くない人が私を見つめていた

「お父さん？」

驚いたように父は私の手を握った。

「うっうっうっ！よかった。本当に良かった！死ななくて本当に・・・！！！」

「！！」

いやそりゃ驚くよ！だって何がなんだか分からないのにいきなり親に死ななくて良かったって言われたら。

「うっ！」

頭が痛い・・・。ズキズキする・・・。

冷静に考えないと・・・。思い出せること全部とりあえず・・・。  
・・・。。？

まって、今私父さんとしやべってた・・・。

父さんの声が聞こえた。生まれて初めて……。

確か私、耳が聞こえなかったはずじゃ……。

いや、そうじゃなくてまず、

自分の事思い出して、そこから整理しないと頭が追いつかない・

。

私の名前は桜夢 美智霞、13歳。もちろん女。

女じゃなかったらむしろ気持ち悪い。

それで今年中学校に入学したばかり。

あと、えーっと……。

「美智霞??」

父は心配そうに私の顔を覗き込む。

「なんで?私この通りぴんぴんして……うっ!ぐっゴホッ!ゲホ  
ゲホッ」

腕を振り回した瞬間、

私の背中に骨盤から首まで背骨を駆け上るような激痛が走った。

すると白衣を身にまとった人が私の背中を察すってきた。

とても申し訳なさそうな、まるで私を哀れむような視線……。  
察しがついた。

ああ、なるほど……。納得だよ。

でも頭の中でいくら落ち着かせようとしても、そんな冷静に構え

ていられなかった。

恐怖。生まれて初めてだ。こんな恐ろしい恐怖は……。

いじめられても、けなされても

今なら全然怖いなんて思わないだろう。

「……………」

医者は黙ったまま私の背中をさすり続ける。

「なつなに？何なの先生。私ちゃんと受け止めるからさ。」  
患者に気を遣わせるなんてとんだ医者だよ。

しかし医者は私に背を向け、父さんに一言

「ついて来てください。」と。

部屋で一人になり、すこしほっとする。

ほっとするあまり真っ白なシーツに水が零れた。

何でだろう???一人になると、こらえてた物が溢れてしまう……。  
こんな姿、父さんに見せれないよ。

落ち着いてすこし頭を整理する。

私のもやるべきことがある。

まず、昨日の出来事を思い出すんだ。

そうすればきっと、私のみにながら起きているのかも分かるはずだ。

しかし私はそのまま眠りについてしまった……。

## 貳 初めての親友

私は小学校のときから、ほとんど一人ぼっちだった。

何か集団で行動するときは、できるだけ嫌そうな顔をする子達を避けて

グループに加わった。

小学校六年生のときに初めて、やっと分かり合える友達に出会えた。

彼女の名前は 神前 亜莉那。

親友になった。彼女は筆談で私と会話してくれた。

耳が聞こえない私にとっても親切にしてくれた。

それから1年間、二人で多くの行事や物事を一緒に楽しんだ。

楽しいほど時間の流れは早く、ついに卒業式を向かえ……。

私はそわそわしながら、ポケットからシャープペンとピンクのメモ紙を取り出し

亜莉那に見せる。

『中学校入って、もしも違うクラスになったらどうする??』

『どうするって、美智霞ってば心配しすぎだよ!』

親友が笑っている。

私はいたって真剣なのだが……。

『だってクラス10個もあるんだよ？それじゃあさびしいよ』

『大丈夫だって！学校が違うわけでもないんだし、ほら！部活とか同じとこ入れば

いつでもあえるでしょ？』

親友は私にほっとさせるように微笑み、シャーペンとメモ帳を渡してくる。

すこし不安は残っていたけど、親友の顔を見て落ち着くことができた。

私は満面の笑みで親友のほうを向き、大きく頷いた。

彼女だけを信じて……。



参 裏切りは突然に・・・。

中学校のチャイムの音が鳴る。

私は1 - 2で小説を読んでいる。

彼女・・・私の親友だった人は1 - 9で友達と騒いでいる。

なぜこんな事になったのだろうか・・・。

そもそも亜莉那が同じ部活に入ってくれなかったのが始まりだ。

私と一緒に行こうといていた陸上部に入らず、新しくできた友達と

テニス部に入った。

その上、最初は休み時間、一日に3回くらいは私の教室に遊びに来てくれたり、

私が彼女の教室に遊びに来るのを彼女が待っていてくれた。

なのに近頃は一週間に一回あるかないか・・・。

私が行ってもドアの外なぞまったく気にせず仲の良い友達と騒ぎまわっている。

少しの間だけだと思っていた。  
彼女が私を裏切るはずがない。

しかしそれは私の誤解だったようだ……。

今日久しぶりに教室移動のときすれ違い目が合った。  
気分が晴れたが、それもつかの間。

ニコッと笑おうとしたが、彼女はすぐに目をそらし、楽しみに  
友達と喋っていた。彼女の長いポニーテールが私に背を向けた。

しかしそんな学校生活の中唯一幸せだったのは、梓縞しじま 亜貴斗あきと  
彼が私に笑いかけてくれることだった。

彼はみんなに優しく、私にやさしい笑みを浮かべてくれる。

小学校の4年生のころからずっと、彼の笑みを見るのが大好きだ  
った。

クラスの男子は私に声が聞こえないことをいい事に、  
わたしに意地悪ばかりしているっぽい。

ホント誰かとは大違いだわ。

チャイムの鐘の音を聞き私は一人で部室へ向かう。

早めに行かないと、人がいっぱい来ると嫌なことしか起こらない。

校舎を懸命に走りぬけ、部室のドアを思いつきり開閉する。

フウッと一息入れ、急いで着替え一人で部活を始める。

今の陸上部は先輩がほとんどサボっているため

別に誰が何しようが怒る人も居ない。  
顧問も居ない

ほとんど真面目にやっているのは私だけだが、  
それでも人が来るんじゃないかと心配になる。

走るのは気持ち良い。  
何もかも、走っている間だけは忘れられる。

唯一不満があるとすれば  
走るときに風を掻き分ける音。それが一度で良いから聞いてみた  
いと思う。

二、三時間ほどしてすべてのメニューをこなし  
帰りの用意をする。

荷物を背負い一人校門に向かう。

しかし私はそこで見たくないものを見ることになる。

( あれは、亜貴斗くんと…… )

もう一人女の人が見える。男の人だったら気にしなかったのに。

ちょうど彼らはプールの裏で楽しげに会話していた。

女の人の方は……竹内たけうち 凜りんね瀬ちゃん？

彼女は中学に入ってから私の代わりに親友の横を歩くようになったこのひとりだ。

私とは何もかも正反対で何でもずばずば言える。

でもなんで彼女と亜貴斗くんが??

こっそり覗いてもばれないだろう。

そう思い影で彼らの様子を伺う。

亜貴斗くんが笑っている。

女子とはあんまり話さないのに……。

あ！みたくないもの見てしまった。

次の瞬間、私はその場から逃げ出した。

「あうう！うあああああー！ー！」

私が今走れる精一杯の力でとにかく走った。走った。

何もかも忘れるために。

しかし、忘れようとすればするほど

私の頭にあの映像がよみがえる……。

彼女、凜禰と亜貴斗は仲良さげに腕を組んだのだ。

彼らは私に気づいたのだろうか。

もう嫌だ。

こんな報われない人生。ひとつくらいいい事あってもイイじゃないか。

横断歩道を急いでわたり、家へ直行する。

かばんに手を突っ込み、カードキーを出す。

父は仕事だ。

母はどうして私なんか生んだのだろう。

生まなかったらきつと、母も父も生きてたまま楽しくやっていけただろうに。

私も意識を持たずにいられただろうに……。

ドアを開けて二階へ駆け上がり、自分のベッドに倒れこむ。

うつうつ！なんで？何で私ばかり……。

その日私は夕飯も食べずに寝てしまったという。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2282ba/>

---

Nest of Dragon ~気高き契約~

2012年1月6日01時46分発行